

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム・滑石
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県 長崎市 滑石6丁目 5-75
記入者名 (管理者)	志田 美香
記入日	平成 19年 9月 14日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/> 1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	従来、ゆったり、たのしく、ありのままにを基本として、その人らしい生活をおくれるよう支援している。地域密着型になったから、とあらためて理念の内容を作りなおすことはない。	○	・地域へもっと積極的に出かけるなど、かかわりを増やしていきたい。
<input type="checkbox"/> 2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	声掛けの仕方や、楽しく生活していただくためにはどうしたらよいか日々、スタッフ間で声掛けなどしたり、朝礼時に情報交換など行い取り組んで居る。		
<input type="checkbox"/> 3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	見学に見えられた際、入居申し込みの際、入居時パンフレットを通し、ご説明している。運営推進会議の際、事業計画報告の際にも理念に触れ説明をおこなっている。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/> 4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日常にお買い物や散歩に出かけ、近隣の人たちと挨拶をかわしたり、している。気軽に地域の方が遊びに来られることはないが、随時見学などの受け入れは行っている。		
<input type="checkbox"/> 5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域活動に参加する機会は少ない。	○	・地域の行事に参加し、地域の方との交流を増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れを随時行っている。また、母体施設である、ユアライフ滑石の配食サービス事業にも参加し、週2回程度ではあるが、実際にお弁当を配りに行き交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義、目的を各スタッフへ伝え、全員で自己評価に取り組み、自分達に求められているものがなんであるのか理解できるよう各スタッフで自己評価をしてもらっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を地域やご家族からでた意見や感想など議事録、口頭で伝え、内容によっては話し合いを行っている。	○	・勤務の都合上、固定されたスタッフの参加になっているが、他スタッフも参加する機会を持ち、スタッフ皆で運営推進会議に取り組めるようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にて市職員の方にも参加いただいて報告を通しご意見を頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を利用されている方がおり、支援内容についての説明は行っているが、内容について十分に各スタッフ理解できているとはいえない。また勉強する機会を設けていない。	○	・研修会などあれば、参加するなどしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体観察や精神状態などには常に気を配り、何か異変があった場合などは、係わったスタッフなどに状況を聞いたりし、虐待行為が発生しないよう注意している。あらためて、虐待について勉強するなどの機会はもうけていない。	○	・勉強会で虐待についてもとりあげ、意識の向上と、虐待似たいうる理解を深めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、契約書、重要事項説明書を用いて説明を行っている。また何かわからないこと、疑問に思うことなどあれば、随時お気軽にスタッフへ声を掛けていただくよう説明し、スタッフからも情報提供を行うなどして理解をしていただけるよう取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>・月1回実施している。勉強会(スタッフ対象:任意)で取り上げてほしいとの意見もあり、勉強会などにて、各スタッフ誰もが説明できるよう、また、どのような内容で契約を行っているのか理解を深めるていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の派遣を年1回受け入れ、利用者の相談に乗っていただいている。また利用者の声に耳をかたむけ、利用者の意見、不安などについては、朝礼時情報交換行うなどし情報共有できるよう努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族面会時に随時報告を行っている、また体調に変化がみられた際など必要に応じて電話連絡をおこなっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族へは、何かあった際は気軽に言ってもらえるよう声掛けをおこなっているが、家族会など具体的な取り組みはしていない。</p>	<p>・家族会を年1回開催予定。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者、管理者はスタッフの意見や提案について聞くように心掛けているつもりだが、いわずらかったり、自分の中のためこんだりして把握できていない部分もあると思う。</p>	<p>○</p> <p>・滑石会議、勉強会で意見交換する場など設けているが、意見を出しやすく、また検討し取り組めるような会議進行の工夫を行うこと、また、各スタッフが意見を積極的に発言できるような働き掛けを行う。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間の調整などは随時相談しながら行っているが、なかなか柔軟には対応できていない。夜間一人対応について、ご家族から不安の声聞かれるが、対応できていない。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動、離職についてはやむを得ない場合もあり、その際は利用者へ精神的な不安が残らないよう、説明を行ったり、声掛けを行うなどして対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている	月1回勉強会をおこなったり、研修を受ける機会を設ける、資格取得希望者には情報提供を行うなど配慮している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修委員会に参加しているが、グループホーム間で交流する機会は少ない。	○ ・グループホーム協議会主催の研修会に参加するなどしているが、交換研修などの機会は少ないため、そういった取り組みもおこなってみたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを感じている様子のあるときは、スタッフ間で対応を変わったり、情報交換時に話を聞いたり配慮しているつもりだが、不足している部分が多いと思う。	○ ・雑談の時間を持ち、気持ちを共有できるようにする。利用者対応などで、ストレスを感じた際は、気持ちを切り替える時間をとれるよう、各スタッフで声を掛けたりしながら、話やすいチームワーク作りをする。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	直属の上司にあたるものが、環境整備や会議に参加するなどして、配慮してくれている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時に、事前にご本人にも面接を行い、実際にグループホームへも来ていただいて、他スタッフ、入居者とも交流を図り、必要に応じて日中だけ通う期間を設けるなどし、お互いの理解を深めるなどしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム内のご案内や、パンフレットなどを通し説明する中で、グループホームの良い点、悪い点説明し、ご本人さんの状況によつ考えられる問題点、その際の対応など、ご家族の意向に合わせ相談対応している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に見えた際、ご家族の声に耳を傾け、必要に応じケアマネージャーに連絡をするなど支援を行っている。また、何かあった場合はご相談くださるよう声掛けしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ、小規模ディの利用をすすめ、なじみの関係作りの大切さを説明している。ディ利用難しい場合は、入居前に日中だけ何日か通う期間を設けたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に作業をおこなったり、不安になっている方にはそばによりそって話を聞いたり、「ありがとう」を忘れず支援している。	○	・時間帯や内容によって、作業に参加希望が聞かれてもお願いできないこともあり、その際の対応など配慮は必要だと思われる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の対応などについて伝えるよう心がけている。ご家族も、ご家族ができることを考え対応してくださったり、相談しながら支援をおこなっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊など進めたり、ご家族へも、行事に誘ったりしながら、より良い関係の持続に努めている。	○	・もっと色々な行事への声掛けを増やす
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域にいらっしゃる友人の面会などもあり、継続的な交流が図れるよう、来訪時にはお茶をだしたりして、利用者やゆっくりお話ができる雰囲気づくりをしたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係や、あった出来事など情報を共有し配慮して支援にあたっている。心身の状況や気分に変化することも多いので、そのときの状況をみながら対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了した方についても、面会に伺ったり、退居時何かあった際などご相談くださるよう声掛けしている。その後の動向にも注意をはらっているが、積極的な働き掛けは行えていない。	○	・暑中見舞いや寒中見舞いなどのハガキを出すなどして、働きかけを行っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、声掛け、把握に努めている。また意思疎通が困難な方については、ご家族と相談し、何が最良なのか検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞き取るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握している。行動や動作、表情などからご本人の要求など汲み取り、できること、できない事なども把握し、その人にあわせた作業に取り組むなどしている。	○	・「できないこと」に着目しがち。安全面で必要なことではあるが、これからは「できること」により重点をおいて取り組み、活動を増やしていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族、本人の状況確認しながら作成している。	○	・評価方法などについて前回は指摘いただいているが、内容などについて検討できていない。スタッフで勉強する中で少しずつ改善していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回の見直しを行っているが、日々の細やかな変更についての作成がおいつかない。変更などあった際はケース記録や業務日誌にて申し送りを行っている。	○	・同上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	ケース記録、業務日誌への記載にて随時確認行っている。	○	・記録をする際の視点の置き方、観察などスタッフによりバラつきがある。勉強会で取り上げ、改善予定。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	受診が困難な状態の利用者については、ご家族と相談しながら、往診診療へ切り替えを行ったり、受診についても、原則ご家族同行としているが、利用者やご家族の状況に応じて受診や送迎などスタッフ対応できるように取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	消防署の協力のもと、消防訓練を実施。また音楽療法を週1回外部より来て頂いて実施している。	○	・地域の方にも気軽に来ていただけるよう働きかけを行う。8月より地域の民生委員の方がお料理教室をしておやつ作りなどしていただくなど、少しずつではあるが支援ができてきている。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	法人内のディケアを利用したり、訪問美容に来ていただいたりしている。介護保険外のサービス利用として、身内のいない方に、ララヘルパーさんの利用など行っている。		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	地域包括支援センターと相談などしたり、受けたりしているが協働はしていない。		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	ご家族の希望に応じて対応。受診へ行くのが困難な方や、利用者の状況を見て、往診対応が良いと判断される際には、ご家族相談の上、往診対応できる医院へかかりつけ変更するなど対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		協働できる医療機関とそうでない医療機関とある。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		実際問題として、重度化し退居する際の受け皿がないことが多い。早々と先を見越して、行動するにしても「追い出される」感を与えてしまう恐れもあり、対応が難しい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々スタッフ間で声掛けながら言葉使いなど徹底している。記録物の取り扱いについても、個人情報について処分する際の取り決めなど決めている。	○ 声掛けの仕方については、他利用者の前で排泄などの確認をすることなどあり、継続して意識向上に努めていく必要があると思う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	表情や声掛けの方法の工夫、顔色などで把握し、利用者の意思を尊重できるよう心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムに合わせ、食事を提供したり、起床時間を遅らせるなど対応している。	○ できるだけ希望に合わせ対応できるように取り組んでいるが、外出支援など日によってはできないこともあり、臨機応変に動けるようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む店には行っていないが、訪問美容で同じ方が来てくださることにより、希望を聞いてもらっている。また、髪を染めたいなどの希望にも随時対応できるようスタッフが行ったりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや食器拭き、片付けなど、スタッフと一緒に、一人ひとりに応じた能力で行っている。	○ ・一緒に作ることで、もっとおいしく、楽しくできると思う。利用者が参加しやすいメニューなど工夫して活動量を増やしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好に合わせ、代替を準備するなどし提供している。また献立作成時に利用者の意見を聞くなどし反映している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表をみながら、トイレ誘導実地したり、利用者のサインを汲み取って誘導したりしている。退院後、おむつだった方が、紙パンツになり、状態に応じてトイレ誘導できるようになった。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂を好む方には一番に入ってもらったり、浴槽内の髪など浮遊物もこまめに掬い取るなどして気持ちよく入浴していただける環境づくりに努めている。声掛け時拒否された方には時間を置いて再度声掛けるなどし、気持ちよく入浴気分になっていただけるよう配慮している。	○	・行事浴をふやしたり、暖簾を掛けるなど環境面にも工夫していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調をみて昼ねを実地したり、眠くなるまでTV観賞するなど一人々就寝時間異なっていて、それぞれのリズムに合わせるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味のピアノを弾いてもらったり、外出したり、家事活動(洗濯ものたたみなど)や趣味活動(クラフト作業など)取り組んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	9名中、お一人だけお金管理されているが、ご家族の希望もあり金銭管理はホームにて行っており、必要物品は立替にて購入を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調、精神状態に応じ、外出支援(ドライブ、散歩など)おこなっている。希望に添えないこともある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	グラバー園、海水浴などへ外出。外食、外出については定期的に企画。利用者の声を反映し計画するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる方は電話のやりとりされたりしている。手紙のやりとりは年賀状だけとなっている。	○	電話は難しい方が多いため、もっとお手紙を出すなどの取り組みを行いたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただけるよう、来訪時はお茶を提供したり、おやつ時などは面会者にも何かおやつ提供し、一緒に食べていただくなど配慮している。居心地よくすごしていただけるよう笑顔の対応を心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態によってベッド柵を使用している方もいらっしゃる(転落防止目的)	○	細かな内容について理解不足している。勉強会でとりあげたり、研修などに参加するなどして理解を深めて行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	所在確認や安全に配慮し取り組んでいる。医薬品など事故につながる物が収納している場所については、安全のため鍵を設置している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の行動に気を配り所在確認、行動の把握に努めている。夜間は数時間毎に利用者の様子確認したり、物音がしたら見に行くなどしすぐ対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ、保管管理行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に目配りし、個人の状態に応じ情報共有するなど、事故防止に取り組んでいる。事故が起きた際は、ヒヤリハット報告や事故報告書にて全スタッフが確認できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は行っていない	○	・全スタッフが対応できるよう、練習を行ったり、マニュアルの作成および、研修会への参加などしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練によって、火災時の避難、誘導方法は勉強しているが、そのほかの災害についての訓練は行っていない。	○	・地震や水害など災害時どこに避難するのかなども確認し、避難訓練に取り入れて行く。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	情報交換につとめ、家族で対応していただく面、ホームで対応できること、できないこと説明を行うなどし、情報共有できるようにつとめ対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定や排泄の確認、異変を感じた際は看護師へ報告するなどし、必要に応じてかかりつけ医へ相談、往診依頼するなどしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法、用量は理解しているが副作用までは理解していない。副作用の心配があるときは、看護師より情報提供をおこなったり、新規薬開始時は症状観察に努めるなど、情報交換している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘しやすい利用者については、排泄チェックで排泄の有無を確認し、下剤コントロールしている。食事にも配慮し週2回以上ヨーグルトをメニューに加えたり、繊維質の取れるメニュー作りに心がけている。また運動量の把握や水分補給に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼食後、夕食後は口腔ケア実施。年2回歯科定期往診を行い、歯科保健指導の受け入れを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じ、食事量、水分量のチェックを行っている。また一緒に食事をとり、各自の摂取状況把握している。月1回体重測定実施し体重の増減把握。水分摂取困難者にはゼリーを作り補給するなどの工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手拭タオルは共有しない。手洗いの徹底、食事前テーブルは除菌スプレー使用するなどしている。	○	勉強会にて感染症を取り上げるなどしているが、マニュアル化はしていない。ホームにあったマニュアル作成をする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板はハイター除菌する、鮮度のいいものを購入するなど配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	掃除や植木の手入れなど行い、環境には気をつけているが、特にこれといった工夫はない。	○	マンションの1階を共有しており、なかなかグループホームの存在をアピールできていない。外壁に花を飾るなど改善したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVの音、室内への採光などに注意し、必要に応じ調整を行っている。室内から見える庭から季節を感じれるような声掛けおこなったりしているが、室内には収集癖のある方もいて季節感のある工夫はできていない。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルを3箇所に分けるなどし、気の合う利用者同士会話したりリビングのソファも臨機応変に移動しゆっくりくつろげるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者の好みのもを置いたり、写真を飾ったりしている。混乱したり、行動障害見られる方には実施できない場合もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、室温コントロールに配慮している。(冷房は27～28℃設定にするなど)	○	定期的に換気をするなどはしておらず、利用者不在時に冷房をつけていることもたまにある。1時間に1回5分程度換気する、冷暖房のコントローラーの設置場所を工夫するなどし徹底を図りたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を使用されている方もおり、自立した生活が送れているとはいえない。車椅子操作時に手足を使用するよう声掛け一緒に動いたり、歩行機能の低下見られる方には一緒に足上げ運動おこなったりし、ADLの低下防止に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	何が混乱の要因になっているか把握し、環境を整えるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者がベランダや庭を自由に楽しめる環境になっていない。	○	見る楽しみができるよう、ベランダにプランターを設置したり、簡単な世話ができる環境づくりをしたい。また、屋外でのバーベキューや庭を散策するなどの活動をしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)